

日本海大和堆周辺水域等における外国等漁船への対応状況について (令和元年漁期)

- 水産庁は、日本漁船の安全操業の確保のため、我が国イカ釣り漁業の漁期が始まる5月から漁業取締船を日本海の大和堆周辺水域等に重点的に配備し、海上保安庁巡視船と連携しつつ、放水等の厳しい措置により、外国等漁船を我が国水域から退去させています。
- 令和元年に大和堆周辺水域等で確認された外国等漁船は、前年と比べて6月～8月までは少ない傾向にありましたが、8月下旬から北朝鮮漁船及び中国漁船が増加し、9月～11月中旬は前年よりも多く確認されました。11月下旬以降は減少に転じ、12月にはほとんど確認されなくなりました。
- 令和元年の1年間に水産庁が実施した外国等漁船に対する退去警告隻数は、延べ5,122隻です。

年 (1月1月～12月31日)	退去警告延べ隻数（うち放水措置）		
	北朝鮮漁船	中国漁船	合計
令和元年	4,007隻(1,171隻)	1,115隻(419隻)	5,122隻(1,590隻)
平成30年	5,201隻(1,986隻)	114隻(72隻)	5,315隻(2,058隻)

- 現在、日本海の大和堆周辺水域では、日本のカニかご漁船が操業しています。水産庁は引き続き、同水域に漁業取締船を配備し、海上保安庁と連携して我が国漁船の安全操業の確保に努めます。
- なお、水産庁は日本海大和堆周辺水域における取締りの強化を図るため、航行性能を向上させ、取締り装備を強化した新造の漁業取締船2隻を本年3月に日本海側（新潟と鳥取）に配備し、同年4月から取締活動に従事させる予定です。

写真は艀装工事（船体に装備などを備え付ける工程）中の水産庁漁業取締船。

はくしゅうまる

「白鷺丸(870トン)」(左)は新潟に新たに配備。

はくれいまる

「白嶺丸(870トン)」(右)は鳥取に配備されている既存の取締船(499トン)を大型化して更新。



◎水産庁の漁業取締りに関する動画はこちら

【大和堆で活動する漁業取締船】 <https://www.jfa.maff.go.jp/j/koho/douga/200108.html>

【動画ギャラリー】 <https://www.jfa.maff.go.jp/j/koho/douga/master.html>